

インターカレッジ・コンペティション 2018 概要版

大 学 名	追手門学院大学
指 導 教 員	社会学部 准教授 上林 功
学 生 代 表 者	社会学部 3年 谷生 海人
テ ー マ	未来の大運動会 ～にぎわいを産むスポーツ共創～
概 要	<p>2021年に関西全体を会場としておこなわれるワールドマスターズゲームズ関西は「する」スポーツの大規模イベントとして、国内3万人、国外2万人の参加者を見込んでおり、「する」スポーツ振興の機会として捉えられている。一方、ワールドマスターズゲームズは参加者に30歳以上の年齢制限を設けており、若年層のスポーツ参加の方法が限定的となっている。</p> <p>こうした世代間でのスポーツ参加格差に対し、提案研究室の指導教員が理事を務める一般社団法人運動会協会では多世代、全員参加でのスポーツイベントとして「未来の運動会」を定期的におこなっている。直近では2018年2月3日(土)と4日(日)、大阪梅田においてスポーツ庁官民連携プロジェクトとしておこなわれた。「新しいスポーツ(運動会種目)」を参加者自らが作り、地域の人々といっしょに運動会をする、新しい時代の「スポーツ共創」を目指したイベントである。1日目に参加者自らが一から運動会競技を考え、協力しながらルールや道具を完成させ、2日目により多くの参加者とともその競技で運動会をおこなう。1日目で約40種類程度のアイデアが考えられ、ブラッシュアップを経て約10種類程度の競技を実施する。運動会をみんなでつくり、みんなで楽しむことで共創的なコミュニティが形成されるイベントとなっている。</p> <p>今回、我々は、ワールドマスターズゲームズ開催期間中に、若年層を含むワールドマスターズゲームズに参加しない国内の人々や、国外から来るワールドマスターズゲームズ参加者または随行者を対象として、多世代、多国籍による「未来の大運動会」をおこなうことを提案する。より深い国際交流と「運動会」という日本文化の発信、次世代にむけた共創的なコミュニティの形成を目的とする。言語の壁や文化の壁を、運動会を一緒に作り上げることで乗り越え、ともに競技を楽しみ競い合うことで、世界初の国際共創スポーツイベントとして発信する。ワールドマスターズゲームズと同様に関西2府6県を会場とし、ライブビューイングで繋ぐことにより、会場となる全ての地域を盛り上げる。</p> <p>※参考：“こんなの見たことない！？新感覚のスポーツイベント「未来の大阪の運動会」に密着！”(スポーツ庁, 2018; https://sports.go.jp/special/case/mirai-osaka-undokai.html)</p>